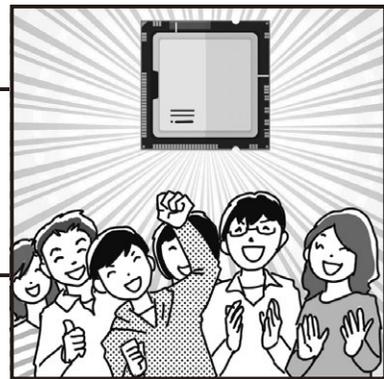


# もう一度重要になる気がする プロセッサ開発のセンス

第2回 先見性が自己満足か…プロセッサのコンセプト開発  
広津 鉄平



リレー形式の連載第1回では「プロセッサのコンセプト(実現したい姿)の良しあしがプロセッサの成否を決定する」ことを紹介しました。第2回はこのコンセプト開発の話をしします。

図1がプロセッサ開発の手順です。プロセッサのコンセプトは市場・技術トレンド、過去知見、他製品情報を元にプロセッサ・アーキテクトが考えていきます。

## ● 2つの市場について考える

今回は2つの極端な例を紹介します。1つは競合ひしめくレッド・オーシャン市場にて独自性を打ち出す例、もう1つは未開領域であるブルー・オーシャン市場に打って出る例です。

とはいっても、将来のことは誰も正確には予想できません。最後は自分の先見性を信じ、自分のやりたい

ことの実現(半分は自己満足?)にモチベートされ、周囲を説得しプロジェクトを発進させます。

## AIのレッド・オーシャンにダイブ!

### ● 明確に差異を付けるコンセプトが必要

昨今の世の中は猫も杓子もAIです。これをやらないわけにはいきません。しかし、多くの競合やプロセッサの巨人がひしめくレッド・オーシャンでどう戦えばよいでしょうか。やはりここは他のプロセッサとの差異を明確に打ち出す必要があります。

図2はプロセッサの柔軟性と性能・電力(電力効率)のトレードオフの関係を示します。GPU(Graphics Processing Unit)は多様なAI処理に対応するため、ある程度電力効率を犠牲にして柔軟性を高めています。そこで新規開発のプロセッサは、GPUに対抗す

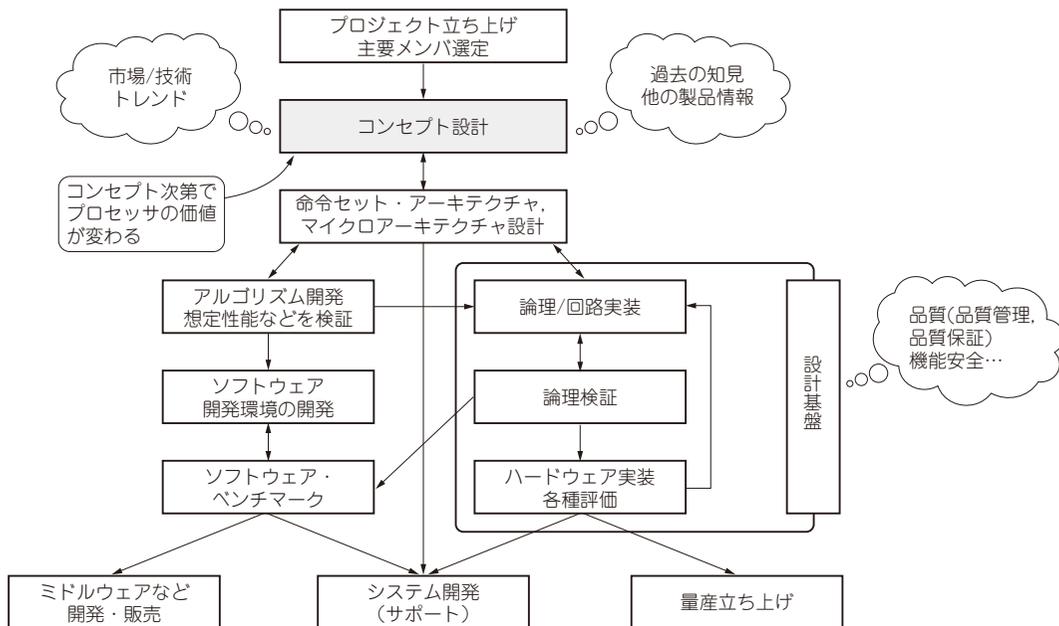


図1 プロセッサ開発の手順ではコンセプト設計が重要